

- 1) C16 (プラズマ物理) 委員会は通常、IUPAP支援の大きな国際会議の会期中に開催される。2005年7月17-22日第27回電離気体現象国際会議(ICPIG2005)がオランダ南部のEindhoven市Veldhovenで開催された。C16委員会は7月21日20:00-22:00に会議場のホテルで開催。出席者はChairのProf. A. Sen, Secretary のProf. R. Weynants と日、米、仏、蘭のMember 4名、および今回および次回現地組織委員会委員長と他1名の合計9名であった。
- 2) 現地組織委員会報告 (現地委員長Prof. Kroesen) :  
今回のICPIG2005への参加者は41カ国から378人および同伴者30名。参加人数は、オランダ61人、日本57人、ドイツ50名などであった。ヨーロッパ物理学会の開催時期が近かったため参加者数がIUPAP Type Aの会議としては少なく、50000 Euroの赤字となったとのこと。招待講演はPlasma Sources, Science and Tecnologyに掲載予定。一般講演はCDにまとめられ、また5年間、本会議のウェブサイトに掲載。
- 3) 次回ICPIG2007国際会議の準備状況報告(現地委員長Prof. Simek) :  
2007年7月15-20日チェコのPragueで開催予定。会場は未定だが、会場により費用が大きく変わる。C16委員会として、IUPAP支援申請を早くすること、サテライト会議の案内は早めに告知すること、若手および途上国研究者への財政的支援することを要望した。論文発表なしでも発展途上国からの参加者を受け入れるよう要望。
- 4) 次期C16委員候補の総会への推薦承認 :  
議長A.Sen (India) を始め R.Bharuthram (S. Africa) , R. Dewar (Australia) , L. Hau (China), V. Godyak (USA), M. Inutake (Japan) の5名が2期6年の任期満了となる。各国リエゾンコミッティーから候補者D. Bora (India), B. Blackwell (Australia), D. Li (China), M. Koepke (USA), S. I. Itoh (Japan)の5名を総会に推薦することを了承。また、継続委員はR. Weynants (Belgium), J.C. Kieffer (France), L. Pitchford (France), M.J. Sadowski (Poland), P. Shukla (Germany), M.C.M van de Sanden (Netherlands)の6名である。これらの他、De Marco (Italy) , A. Frank (Russia)あるいは(South America)から、新委員2名を総会で決定する必要がある。
- 5) 次期役員候補の承認 :  
議長R. Weynants, 副議長L. Pitchford, 幹事P. ShuklaをIUPAP総会に推薦することを全会一致で承認した。
- 6) プラズマ物理若手研究者のためのIUPAP賞創設の総会への提言 (案) 討議 :

[賞の名称] : IUPAP Early Carrier Award in Plasma Physics

[賞の形式] : メダルおよびIUPAP賞状

[頻度と機会] : 毎年一回授与する。ただし、隔年に開催されるICPP(Int. Conf. On Plasma Physics) とICPIG (Int. Conf. On Phenomena in Ionized Gases)の機会に交互に授与。

[選考方法] : (1) X年の受賞者は、その年の7月1日現在、40歳未満であること。(2) プラズマ物理分野で顕著な独創的業績を上げた者。(3) ICPIGでは低温プラズマ物理に、一方、ICPPでは核融合、宇宙や天体などにおけるプラズマ物理に関する業績に重点を置く。

[候補者推薦] : (1) 選考委員以外の誰でも、いつでも1名を推薦できる。(2) 自薦は受けない。(3) C16委員長に候補者推薦する。その場合、(a) 候補者の業績の評価とその業績を確認するための1000語以下の書状、(b) 略歴書、(c) 最重要論文リスト、および5編以内の論文別刷あるいはプレプリント。

[選考委員会構成] : X年の選考委員会は、C16委員と、X-2年およびX年の当該会議国際委員会の委員長・副委員長を加えたメンバーで構成される。

7) C16のウェブサイト< <http://www.ipr.res.in/c16iupap/> > 開設 :

C16のウェブサイトが、ChairのProf. Senの努力とインドのプラズマ研究所の好意により開設された。将来にわたってこのウェブサイトを維持してくれる予定。要望があったら寄せてほしいとのこと。

7) IUPAP 主催南アフリカ世界会議の案内とお願い :

世界物理年を記念して、World Conf. on Physics and Sustainable Development (WCPSD2005) が、2005年10月31日-11月3日南アフリカのDurbanで開催される。本会議のEnergy & Environment Sessionのプログラム委員であるProf. Inutakeから、準備状況報告とC16メンバーの各国からの参加要請がなされた。

9) 次回IUPAP委員会予定 :

2006年10月25-29日に、ウクライナのKievにおける13th International Congress on Plasma Physics (ICPP2006)の期間中に新委員会として開催予定。